



2021年2月5日

各位

会社名 日東紡
代表者名 取締役代表執行役社長 辻 裕一
(コード:3110、東証第1部)
問合せ先 コーポレート・コミュニケーション部長 宮田 毅
(電話番号 03-4582-5040)

特別損失の計上及び2021年3月期 連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社事業の構造改革に伴う特別損失の計上を見込むとともに、2020年11月6日に公表いたしました2021年3月期(2020年4月1日~2021年3月31日)の通期連結業績予想を修正しましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

販売市場の不振や汎用品における海外メーカーとの価格競争等が激しい事業環境の下、繊維事業及び複合材事業の業績低迷が続いております。これまで収益改善に向け、コスト削減等に取り組んでまいりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により販売が一段と落ち込み、従前の対策では改善困難との認識により、抜本的な事業構造改革に取り組むことといたしました。

(1) 繊維事業の構造改革

本日付け「(開示事項の経過)繊維事業の構造改革について」にて公表いたしましたとおり、原糸事業からの撤退及び芯地事業の再構築を決定いたしました。原糸事業においては、製販子会社であるニットーポー新潟株式会社を2022年3月末(予定)で解散し、清算いたします。芯地事業は、日東紡本体から事業を切り離して経営に一層の機動性を持たせるため、開発・製造・販売を一体運営する新子会社を2021年4月1日(予定)に設立し、7月1日より事業運営を開始する予定です。芯地事業に係る従業員は子会社に転籍する方針となります。

(2) グラスファイバー事業部門 複合材事業の構造改革

複合材事業の再構築に向け、効率的な事業運営を実現すべく生産体制の適正化を実行いたします。日東紡 福島工場の複合材の生産設備を縮小し、富士ファイバーグラス株式会社の生産体制を拡充いたします。これにより、コスト競争力の向上と生産性の向上を図ってまいります。なお、日東紡 福島工場の複合材設備縮小後は、スペシャルガラスの新溶融炉を複数立ち上げることを計画しております。

当構造改革の実施に係る費用として、2021年3月期第3四半期決算に繊維事業に係る約8億円及び複合材事業に係る約24億円の合計約32億円を事業構造改善費用に計上しております。なお、第4四半期連結会計期間には事業構造改革の推進により約8億円を特別損失に計上する予定です。

2. 2021年3月期 通期連結業績予想数値の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	80,000	5,500	5,400	10,000	257.74
今回発表予想 (B)	78,500	5,500	5,400	6,500	167.53
増減額 (B-A)	△1,500	—	—	△3,500	
増減率 (%)	△1.9	—	—	△35.0	
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	85,722	8,160	8,202	5,771	148.73

3. 修正の理由

当第3四半期連結累計期間の実績に加え、米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染症拡大の影響による5Gインフラ関連部材の調整など足元の事業環境及び今後の見通しを踏まえ、通期連結売上高を下方修正いたします。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、前述の特別損失の計上に伴い、予想数値を修正いたしました。なお、配当予想に変更はありません。

以上

(本資料に関する注意事項)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。